上映作品および講演者について



井手洋子



九州・佐賀で育つ。明治学院大学文学部卒。卒業後、紆余曲折を経てドキュメンタリー映画の世界へ。1985年にドキュメンタリーの大先輩羽田澄子監督と出会い、「安心して老いるために」「歌舞伎役者・片岡仁左衛門」などに助監督として参加。現在はフリーランスの映像ディレクターとして、企業PRを中心に活動。手がけた作品は120本以上。育休中のお父さんの暮らしから先端技術の研究室まで日本の様々な「人」「現場」をカメラで眺めてきた。「ショージとタカオ」は、日々の仕事の傍ら自主制作。

「仕事　君はどう思う？」（東京都／岩波映像　2005年・産業映画祭　文部科学大臣賞／教育映像祭　文部科学大臣賞）、「東京のモダニズム建築　学校編」（BSフジ／紀伊国屋、ポルケ　2009年・教育映像祭　文部科学大臣賞）などなど。

自主作品関連として「教科書裁判　歴史の法廷で裁かれるもの」や川崎の路上生活者を描いた「川崎越冬　1995〜1996」。